

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成 29 年 5 月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が55.0%で最も高く、次いで「信用金庫」が32.9%となっており、この2つで約9割を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、39.0と前回に比べ2.0ポイント上昇した。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が70.4%と7割を占めて最も高く、安定した状態が続いている。
- 最近の借入金利は、「1%台」が42.7%と最も高く、次いで「2%台」が26.4%、「1%未満」が22.0%となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」を合わせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、15.1と前回に比べ4.6ポイント上昇した。
- 金融機関からの借入金総額の状態は、前年同時期と比べて「減少した」が42.7%、「変化なし」が40.4%となった。今後1年内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が56.4%で過半数を占めた。

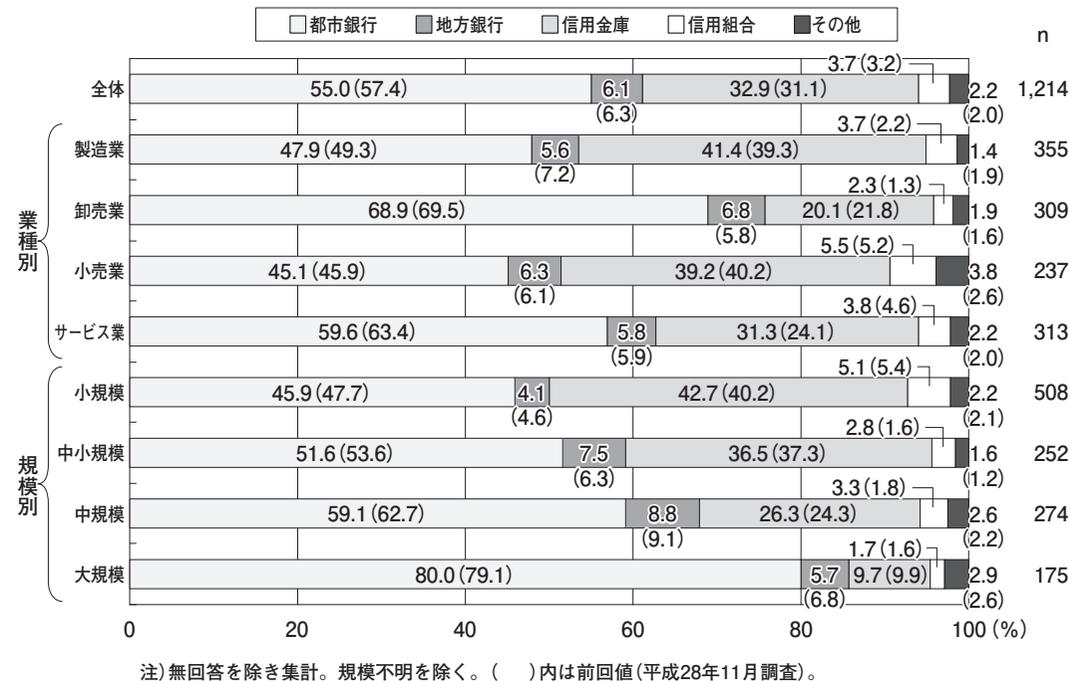
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が55.0%（前回57.4%）で最も高く、次いで「信用金庫」が32.9%（同31.1%）となっており、この2つで約9割を占める。このほか、「地方銀行」が6.1%（同6.3%）、「信用組合」が3.7%（同3.2%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では68.9%と7割近くに達している。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」が約4割を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が45.9%、「信用金庫」が42.7%で拮抗している。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなっており、大規模では「都市銀行」が80.0%と8割を占めている。

図表 1 主な取引金融機関



2 借入や返済に対する姿勢

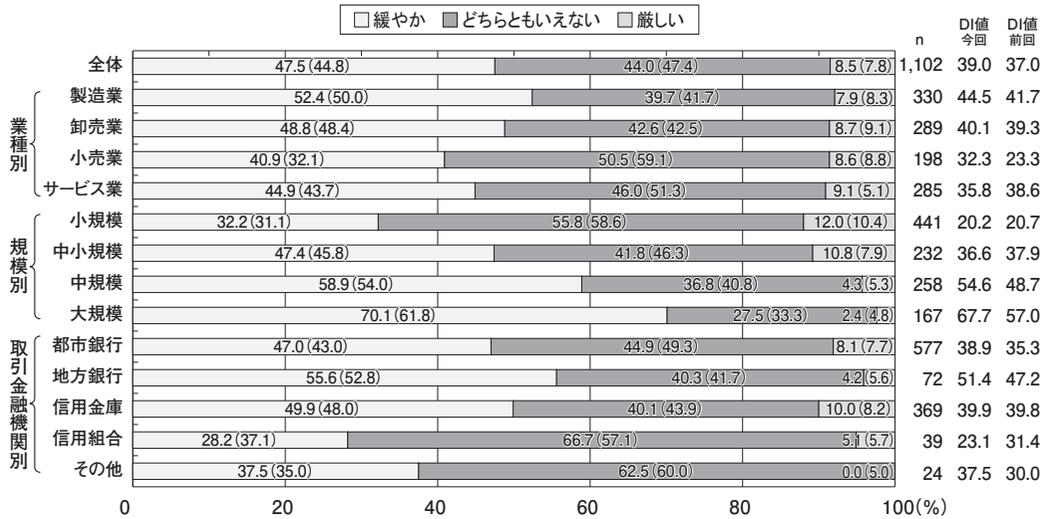
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では39.0（前回37.0）と前回に比べ2.0ポイント上昇した。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いている。

業種別にみると、製造業44.5（同41.7）、卸売業40.1（同39.3）、小売業32.3（同23.3）とDI値が上昇した。一方、サービス業35.8（同38.6）のみDI値が低下した。

規模別にみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなっている。大規模67.7（同57.0）は10.7ポイントと大きく上昇した。一方、小規模20.2（同20.7）と中小規模36.6（同37.9）はわずかながら低下した。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行では38.9（同35.3）とDI値が3.6ポイント上昇したほか、地方銀行51.4（同47.2）も4.2ポイント上昇し、緩和傾向となった。一方、信用組合23.1（同31.4）のみDI値が8.3ポイント低下した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



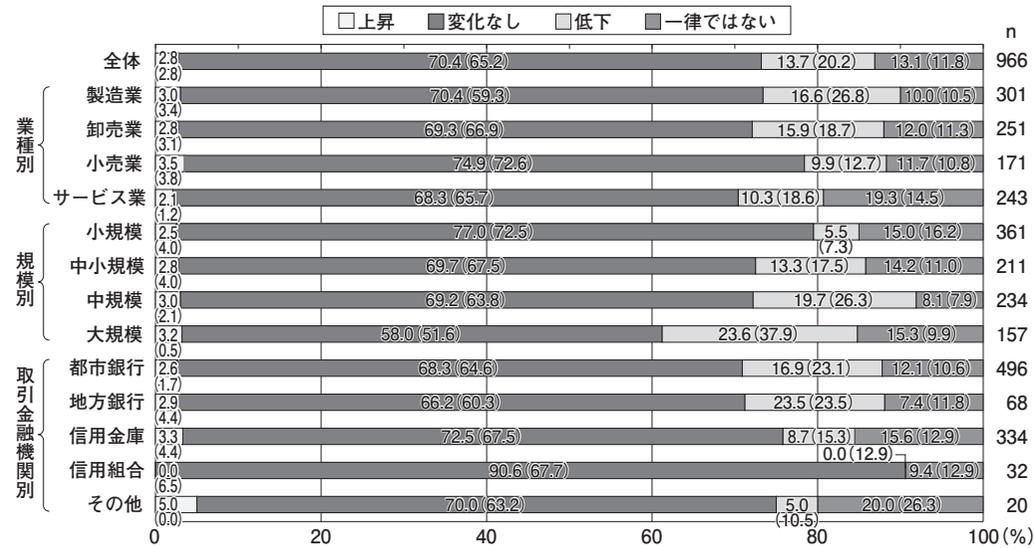
注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年11月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が70.4%(前回65.2%)と7割を占めて最も高く、安定した状態が続いている。また、「低下」が13.7%(同20.2%)と6.5ポイント減少した。全ての業種、規模で「低下」が減少した。

図表3 金利傾向



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年11月調査)。

(2) 金利水準

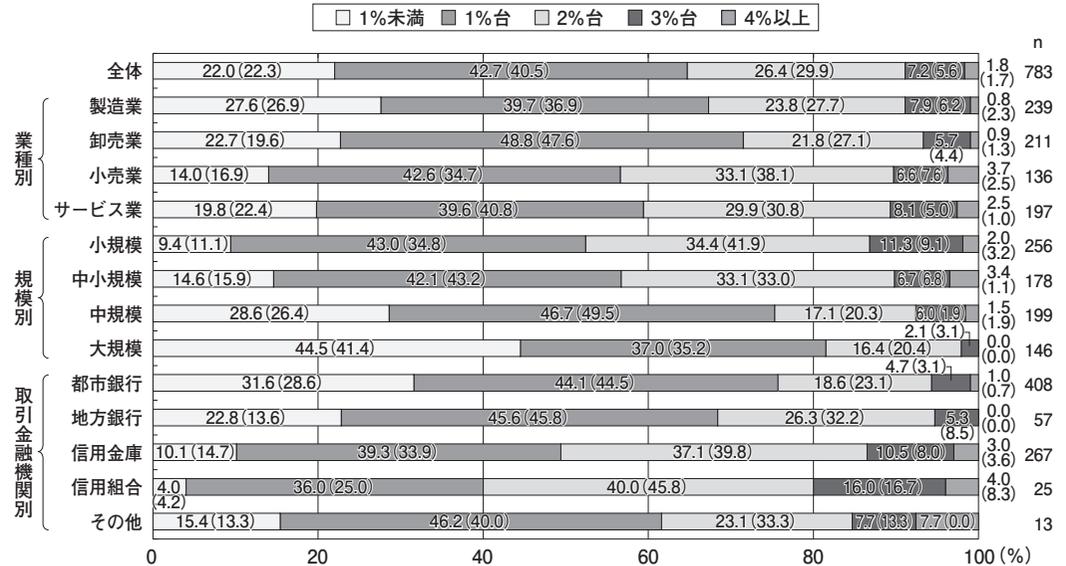
最近の借入金利は「1%台」が42.7%(前回40.5%)と最も高く、次いで「2%台」が26.4%(同29.9%)、「1%未満」が22.0%(同22.3%)となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。

業種別にみると、製造業と卸売業では「2%未満」があわせて6割を超え、他の業種に比べて金利水準が低い。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「1%未満」が高くなっており、大規模では4割を超えている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が44.1%で最も高く、「1%未満」とあわせると7割を超えている。信用金庫では「1%台」が39.3%で最も高くなった。

図表4 金利水準



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年11月調査)。3年超5年以内、保証協会の保証付以外。

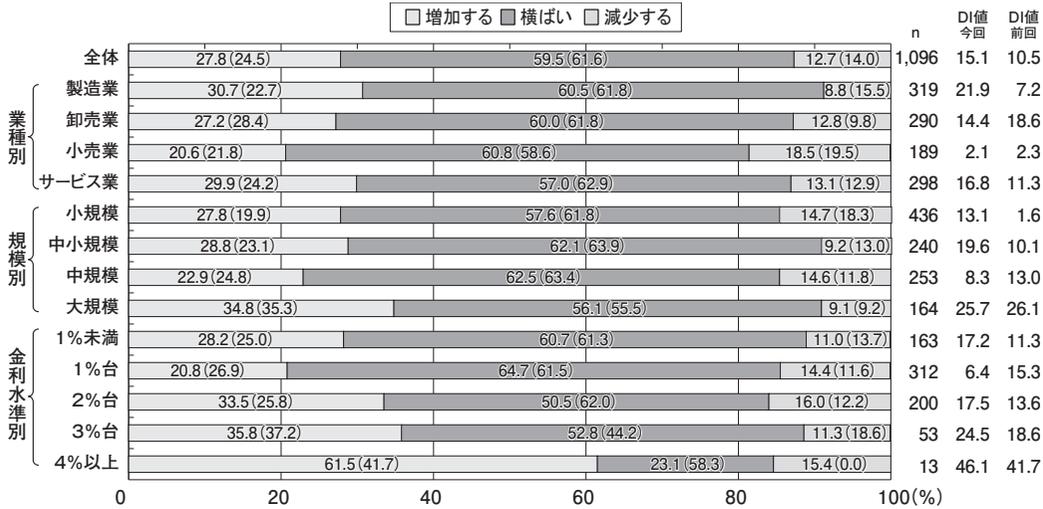
4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では15.1(前回10.5)と前回に比べ4.6ポイント上昇した。

業種別にみると、製造業21.9(同7.2)で14.7ポイントと大きく上昇した。

規模別にみると、小規模13.1(同1.6)で11.5ポイント、中小規模19.6(同10.1)で9.5ポイントと大きく上昇した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

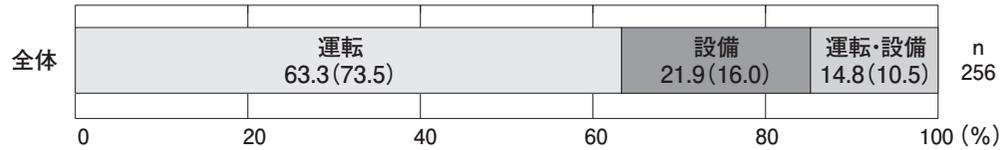


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成28年11月調査)。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が63.3%（前回73.5%）と最も高く、次いで「設備」が21.9%（同16.0%）、「運転・設備」が14.8%（同10.5%）となった。前回に比べ「運転」が10.2ポイント減少し、「設備」が5.9ポイント増加した。

図表6 資金使途

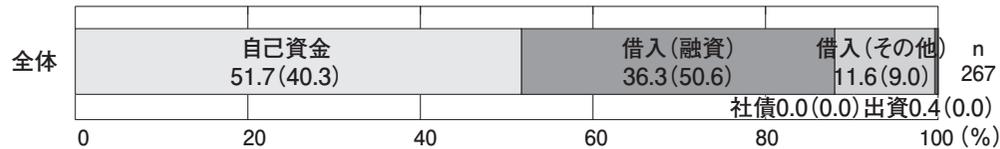


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成28年11月調査)。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」が51.7%（前回40.3%）と最も高く過半数を占めた。次いで「借入（融資）」が36.3%（同50.6%）となった。前回に比べ「自己資金」が11.4ポイント増加し、「借入（融資）」が14.3ポイント減少した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成28年11月調査)。

5 金融機関からの借入金総額の状況

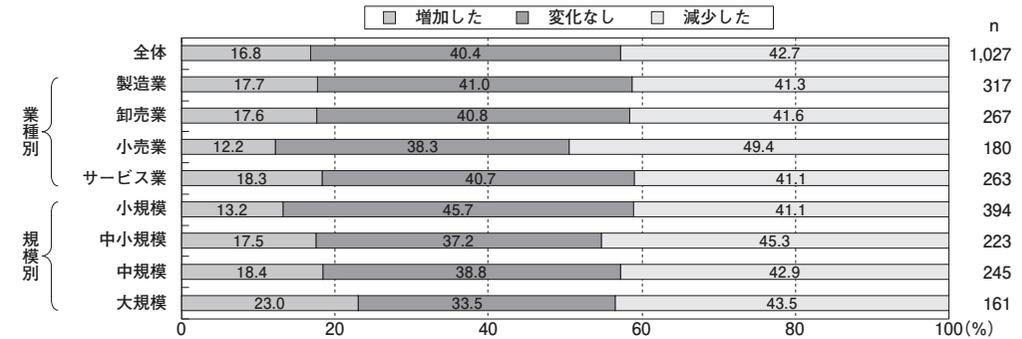
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が42.7%、「変化なし」が40.4%となった。借入金総額が「増加した」のは16.8%となっている。

業種別にみると、「増加した」はサービス業で18.3%とやや高い。一方、小売業では「減少した」が49.4%で半数近くを占めた。

規模別にみると、「増加した」は大規模で23.0%と2割を超えている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。

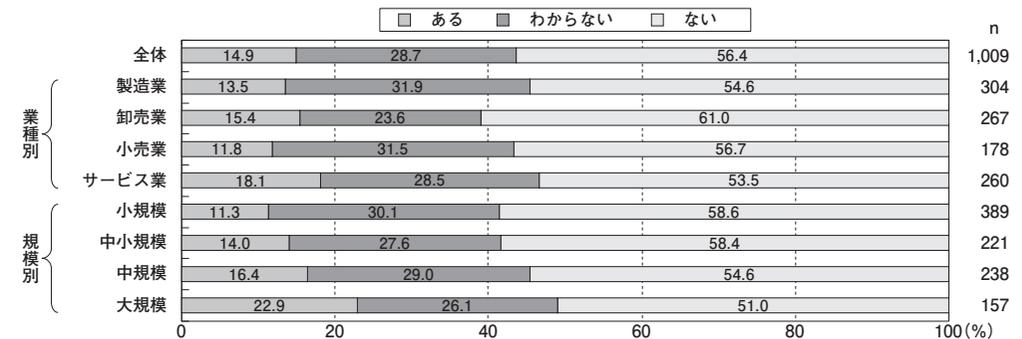
(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年以内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が56.4%で過半数を占めた。「ある」は14.9%となっている。

業種別にみると、全ての業種で「ない」が過半数を超えている。

規模別にみると、大規模では「ある」が22.9%と2割を超えている。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。